

1-8-⑥ 公園・風景づくり等

これまでの状況

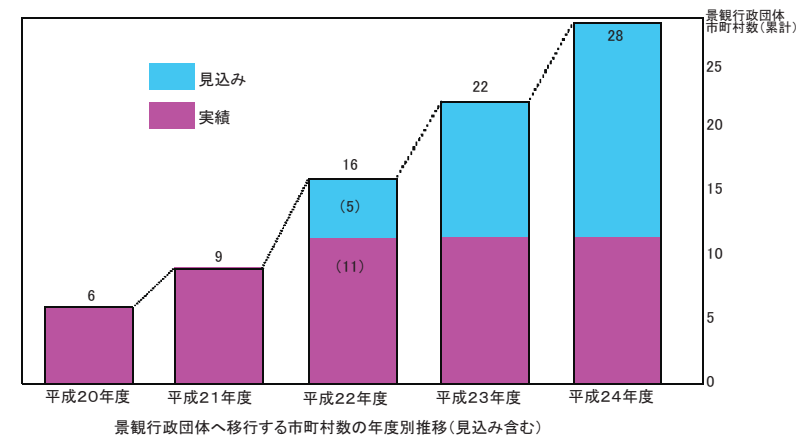
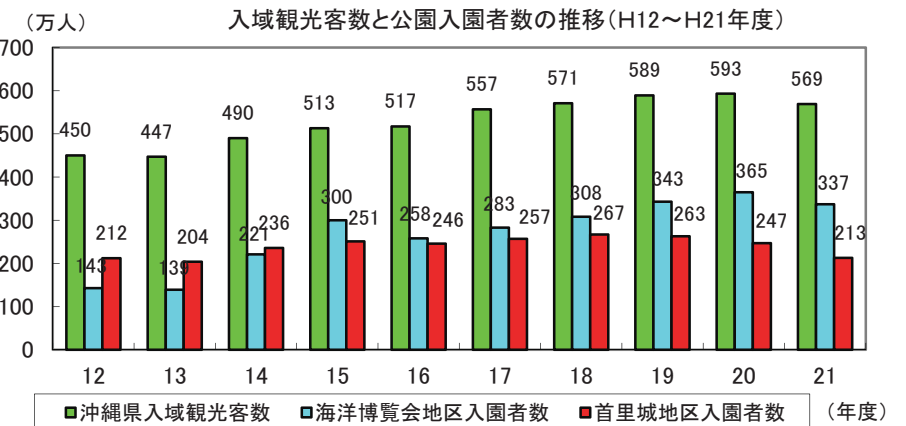
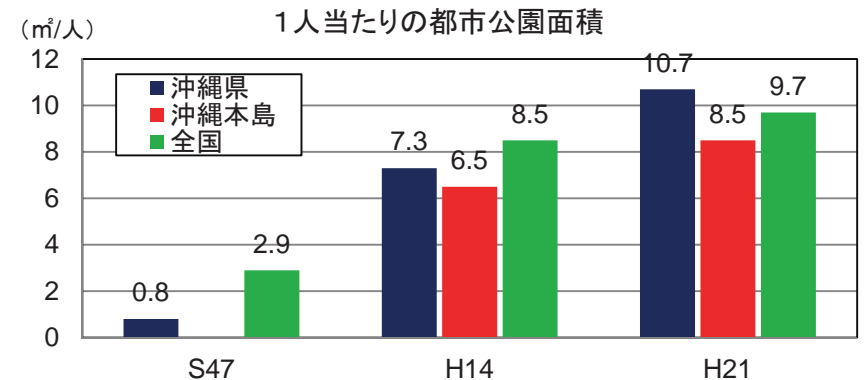
- 都市計画区域内人口1人当たり都市公園面積は、沖縄県全体では全国平均を上回るに至っているが、沖縄本島は未だ全国平均を下回る。
- 国営沖縄記念公園（海洋博覧会地区、首里城地区）は、観光地としての人気が高く、観光振興の拠点となっている。
- 先の大戦によって破壊された「沖縄の原風景」が取り戻されることはなく、わずかに残った沖縄らしい風景も急速に失われつつある。

現計画における主要な取組

- 国営公園の整備（H14：沖縄美ら海水族館、H19：首里城書院・鎖之間）や世界遺産を活用した都市公園の整備（中城公園、識名公園等）を推進
- 首里城の城下町に相応しい歴史的空間の形成を推進（街なみ環境整備事業：首里金城地区・龍潭通り地区）
- 風景づくり推進事業の創設（H20年度）により、市町村による景観計画の策定等を推進

今後の課題

- 滞在型観光の拠点づくりの観点から、周辺における風景づくりや伝統行事の再興と一体となった都市公園整備の推進
- 「住んでよし、訪れてよし」の観点から、県内各地域における沖縄らしい風景づくりのより一層の推進



1-8-⑦ 生活環境（下水道、公営住宅）

これまでの状況

- 下水道普及率は、都市部を中心に向上し、公共用水域の水質が改善。かつては遊泳禁止となっていたビーチがよみがえるなど、観光振興にも大きく貢献。
- 公営住宅は、復帰後平成21年度までに34,100戸を建設したものの、最低居住水準未達世帯の割合は、未だ全国平均を下回っている。

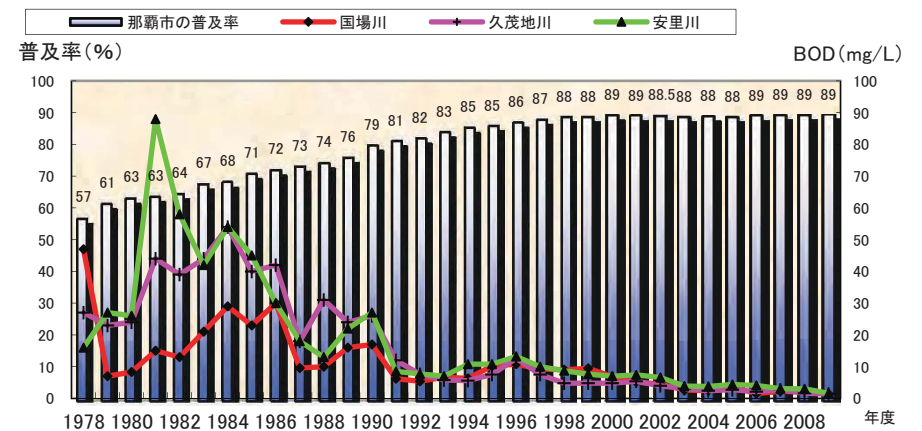
現計画における主要な取組

- 流域下水道（中部、中城湾、中城湾南部）、公共下水道、特定環境保全公共下水道等の事業を推進
- 老朽化した公営住宅の建替え（県営渡橋名団地（豊見城市）、県営泡瀬団地（沖縄市）、市営石嶺団地（那覇市）等）を推進
- 若年層の定住化及び地域活性化を図るため、離島・過疎地域における公営住宅整備を推進

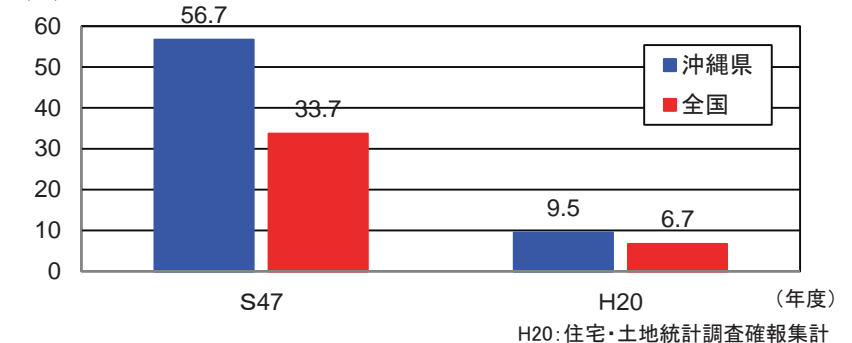
今後の課題

- 汚水処理量の増加要因（観光客数の増加、基地跡地の開発等）を踏まえた現行計画の見直し（中部流域下水道等）
- 過疎町村や離島における小規模集落の生活環境の改善や沖縄特有の自然環境を保全するための汚水処理事業の展開
※下水道事業だけでなく、農業集落排水、合併浄化槽等他の汚水処理事業と連携した効率的・効果的な整備の促進が必要
- 復帰前後に建設された公営住宅の早急な建替え
- 環境や高齢化社会等に配慮した公営住宅の整備

那覇市の下水道普及率とBODの推移(BOD75%値)



最低居住面積水準未達世帯割合



沖縄県汚水再生ちゅら水プラン整備目標

